

曲水流觴思逸少。斜川移棹億陶潛。
雨籠殘照生黃靄。漲退平沙現白塩。
才拙敢辭金谷罰。詩盟新結律猶嚴。

旭莊の中島の梅林 (図1・61) と

雪来館 (図1・60)

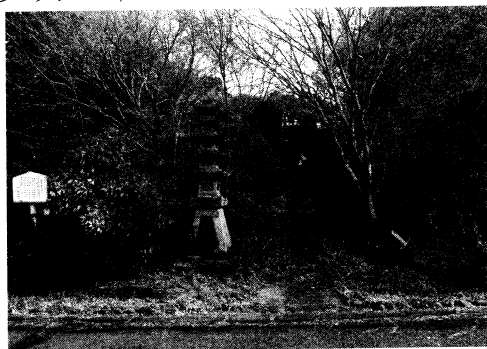
ここで、放学・遊山とは直接関係しないが、隈川筋と前述の田島地区にある旧跡について付言しておきたい。すなわち廣瀬旭莊が住んだ「中島梅林」と「雪来館」である。

周知のように旭莊は兄淡窓とちがいが大坂・江戸に住み、山陰、北陸など全国を歩

いた。にもかかわらず、生涯、故郷日田、そして兄淡窓・咸宜園への思いを持ち続けた。亡くなる二年前には、日田の田島の会所宮の近くの丘の上に家をかまえ「雪来館」と呼んで住んだ。また旭莊は、その前に日田の中島に住んでいる。

中島の梅林は大字庄手字中島の地にある。廣瀬旭莊は梅花を好み梅墩と号したが、万延・文久(一八六〇〜六一)頃、梅の花の中で老後を過すべく、ここに梅樹数百本を植えた。五岳上人の「中洲」と題した詩には、「斜に略約(丸木ばし)を通れば、水濞せん。水に孤洲あり、洲に村あり。道に是れ旭翁(旭莊)高臥の跡。梅花はなお旧柴門を守るがごとし」とある。現地には、かつて「ウメバヤシ」と呼ばれる梅林があったが、河川改修により往時の姿を失い、梅樹も殆んどなく、養魚場、木工所などが建っている。

一方、文久元年(一八六一)四月、旭莊は大坂を引き払って日田に帰り同十二月に雪来館を建ててここに移った。雪来館の跡は大字日高、刃連村の西北部、県道戸畑・日田線沿いの小高い丘にある。その南には会所宮神社がある。会所山は青少年時代から旭莊が遊んだ所であった。旭莊は、この家のまわりに桜、梅、梨、竹などのほか、桜、もっこく、柳、枇杷など



雪来館跡

を植えている。しかし、約一年後、文久二年十二月には大坂に移っている。

その後明治初年、雪来館は緒方氏の住居となり、昭和初年改築のため、その一部は移されて県道沿いの分家の座敷となったと伝えられている。改築の家も終戦の頃、敷地の一部が欠け落ちたため(東)方に移転したという。(高倉芳男「ふるさとの史跡と伝承」)

五 高瀬・石井地区

前述のように淡窓師弟は三隈川わたって、対岸にひろがる高瀬・石井地区にもしばしば足を運んだ。その中で、特に興味深いのは文政七年(一八二四)四月の高瀬・石井地区への遊山である。すなわち、

・文政七年

四月二日。先考二陪シテ遊山ス。森成策同行セリ。門生従行スル者四十余人。垂水ヲ渡リ、四手平阪ニ登リ台原ヲスキ、琵琶ノ額ヲ行キ黒岩ニ憩フ。此庭眺望好シ。因リテ行厨ヲ斯ニ開ク。已ニシテ龍塞ト云う所ニ至リ、一松ノ下ニシテ再ヒ稲員喜代吉力贈ル所ノ酒肴ヲ開ク。ソレヨリ山ヲ下リ、銭花溪ニ傍ウテ西シ、石井大明神ノ祠ニ謁シ石井橋ヲ渡リ、日隈ヲ過キテ帰レリ。此日、予、詩アリ曰クハク(略)。

この時の山遊は一行四〇余人、塾生あげての遊山であった。この時、淡窓師弟は、田島を通って竹田村に出て若宮神社の近くの「垂水の渡し」で三隈川を渡った。この垂水はかつて垂水橋という沈橋があり、今もその痕跡をとどめている。垂水を渡るとまず「四手平阪」を登る。ここには「捨平」の字が残る。坂を上ると誠和稲荷神社があり、ここには塩谷代官の



垂水渡し付近の現況